

早明浦ダムだより

【発行】 早明浦ダム・高知分水管理所
土佐郡土佐町田井6591-5
(電話) 0887-82-0485



←スマホはこちらから
早明浦ダムHP

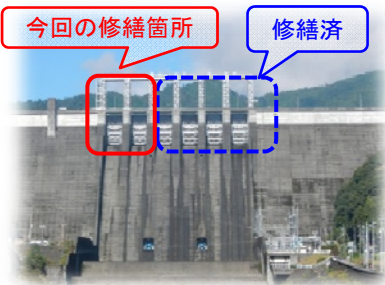
★初刊発行★

この度、早明浦ダムでは、地域に愛されるダムをテーマに『早明浦ダムだより』を発行することになりました。早明浦ダムで取り組んでいることや、ダム管理の仕事に関する情報などを年4回程度、地域の皆様へ発信していく予定です。また、地域の方を対象とした施設見学会等も企画しており、より身近なダムとして地域の皆様に親しまれるよう努めます。

職員一同、よりよいダムに向けて取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

(早明浦ダム・高知分水管理所長 小谷口)

次の洪水に備えて準備中 ～ゲートの修繕～



平成30年12月から平成31年2月にかけて、洪水時に使用しているゲートの修繕を実施しています。

内容は、ダムの頂部にある6門のゲートのうちの2門で

- ①ローラの取り替え
- ②ゲート周辺の塗装の塗り替え

を実施しています。

ゲート整備工事 見学会のお誘い

ゲート整備工事の見学会を開催します。普段は見ることのできないダム内部や工事箇所が見られます。小学生から大人までどなたでも参加できます。申し込みお待ちしております。

■申込方法

事前に管理事務所まで
お電話ください。

電話 82-0485

□開催日

平成31年2月2日

(土曜日)

□時間

10時～12時

□集合時間

9時50分

□募集人数

先着20名程度

□集合場所

早明浦ダム・高知分水管理所(土佐町田井)

□見学会内容

①早明浦ダム概要説明

②早明浦ダム堤内見学

③ゲート整備工事概要説明&現場見学

□プレゼント

早明浦ダムカード

早明浦ダムコースター

【子供限定】

流木チップで育った

カブト虫の幼虫

2018年(平成30年)出水の記録

～早明浦ダム～



■平成30年は、7月の台風7号、9月の前線通過及び台風24号に伴う降雨により、3回の洪水調節を実施し、下流河川の洪水被害の軽減に努めました。なお、昭和50年の管理開始以降、早明浦ダムにおける洪水調節回数は、累計で111回、年平均で約3回となります。

平成30年の洪水調節は下表のとおりです。

■7月に発生した台風7号洪水では、6月28日から7月9日にかけて約1,230mmもの降水量があり、これは管理開始以降2番目となる記録になりました。

NO.	出水要因	ゲート放流期間
1	前線/台風7号	6月29日 ～ 7月12日
	最大流入量	2,590 m ³ /s
	最大放流量	1,360 m ³ /s
2	前線	9月9日 ～ 9月14日
	最大流入量	800 m ³ /s
	最大放流量	750 m ³ /s
3	台風24号	9月30日 ～ 10月4日
	最大流入量	2,930 m ³ /s
	最大放流量	1,390 m ³ /s

流入量－放流量＝ダムに貯めた量

■平成30年を振り返って

平成30年は、記録的な降雨が日本各地で発生しており、四国でも甚大な被害が発生しました。

早明浦ダムでは、4月に洪水対応の演習をはじめ、ゲートの操作の訓練、情報提供の訓練等を定期的に実施し、本番に備えてきました。

今後、迅速かつ確実な操作が行えるよう施設の維持管理を計画的に取り組み、適切なダムでの操作を行ってまいります。

早明浦ダム再生事業推進室が発足！！

早明浦ダム再生事業

スタート

平成30年3月30日、早明浦ダム再生事業の事業実施計画が認可されたことに伴い、同年4月1日付で池田総合管理所に『早明浦ダム再生事業推進室』を設置しました。早明浦ダム再生事業は、ダムの治水機能の向上を図ることを目的として、平成40年度までの11年にわたって進めていく事業で、水資源機構が実施する初めての再生事業です。

具体的には、洪水調節容量を大きくするため、貯水容量の振替や予備放流方式を導入するとともに、貯水位が低くても放流能力を確保できるように放流設備の増設等を行います。

今年度は、事業地周辺の地質調査や環境調査及び測量・設計などを実施しています。

本事業を進めるに当たっては、



事業内容やその取り組みにについて丁寧の説明を心掛けていきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

選択取水設備の運用 ～日々監視～

★★★★ダム知識 Information ★★★★★

早明浦ダムの放流設備のひとつに「選択取水設備」があります。これは文字どおり取水する深さを選択して放流できるものです。この設備にはどのような役割があるのか紹介します。

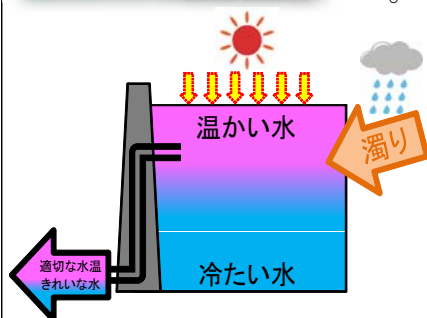
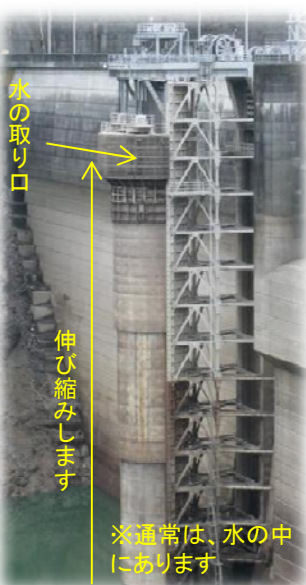
●なぜ、取水する深さを選択するのですか？

ダムから下流へ流している水の温度の変化や濁りによって川に生き物などにできるだけ影響を与えないようにすることが大切です。しかし、ダム湖では、特に夏場において水面近くは温かい水が、底の方に冷たい水がたまってしまう。また、大雨などで一時的に濁った水がダム湖の水面近くに流れ込んでくることもあります。このように、湖の深さによって水温や濁り方の違う水の層ができることとなります。そのため、早明浦ダムでは、ダムの下流にできる限り影響を与えない水の層を選んで下流へ流すことができる施設を取り付けています。なお、洪水の後、濁り水となる場合がありますが、できる限りダム湖内のきれいな層の水を選んで流すように取り組んでいます。

●日々の管理は、どのように実施していますか？

早明浦ダムにとって、下流の水温及び水の濁りは細心の注意を払うべき管理業務のひとつです。そのために、①3時間おきにダム湖の水温や濁りの計測、②下流に流している水の濁り具合や季節毎に定められた水温を満たしているか確認、③測定結果を踏まえ、さらに適切な層への水の取り口位置の変更、④定期的に関係各所に情報提供、などを行っています。

引き続き、選択取水設備はもとより、ダムの管理を適切に取り組んでいきます。

2018秋 上下流交流会
和気藹々

平成30年11月16日に大川村白滝の里で、秋の上下流交流会が行われました。

さめうら水源の森ネットワーク事務局のお声掛けにより認定NPO法人新町川を守る会(徳島市)をはじめ早明浦ダム職員も参加し、総勢53名が大川村に参集しました。

ダム湖畔で植樹や下草刈りを行った後、白滝の里に会場を移し、和田村長を交えた交流会を開催しました。吉野川の上流と下流がひとつとなり、和気藹々とさらに親睦が深まりました。



上下流交流会参加者



交流会